

# 男山「こども」ふれあい自然観察会

日 時：2019 年 11 月 30 日（土）

場 所：京都府八幡市男山 石清水八幡宮

天 候：曇り

主 催：ボーイスカウト 綴喜第1団

参加者： 35 名(子供 19 名 大人 16 名) 主催者スタッフ 5 名 当会スタッフ 9 名

石清水八幡宮が鎮座する男山の参道、その一帯の「鎮守の杜」で自然観察会が実施され、今回も当会スタッフが案内させていただきました。

前日から京都では最低気温がグンと下がり報道では当日は1桁台の4.1度とか。8時30分にスタッフが麓の高良神社前に集合。関係者一同、打ち合わせをし、受付開始迄一時間ほど経過のうちにジンと寒さが身に染みました。

9時45分、育成亮会長挨拶、スタッフからの案内、注意、当会清水代表の挨拶と案内の後、参加者、スタッフ、それぞれ3班に分かれて観察会開始となりました。

先ず、高良神社にあるオガタマノキを観察、下に落ちていた実を拾ってもらい、実にかろうじて残っていた赤い種もみられました。木の観察と説明と、今年三月に同じ木に咲いていた花の写真と、オガタマノキを食草として育つ蝶「ミカドアゲハ」の標本を見ていただきました。残念ながら、当地ではこの蝶は生息せず伊勢市、紀伊半島、南西諸島などの暖地に生息していることを伝えました。そして、直ぐ横にある樹齢700年のタブノキ(御神木)を観察、木霊が宿る神秘を感じてもらえたことでしょう。この木は線香のねり剤とし、香りづけとして使われること、葉の葉柄を切り離し、もう一度引っ付けて離すと、粘液の糸が伸びる、その粘りを見てもらいました。その後、表参道を登り始めました。道際にはイヌビワが目立ち、葉柄を折って出た白い汁から、何の木を思い浮かべると聞くと、イチジクという声が出て、予想外のいい反応でした。この汁を気長にいぼに付けていると自然にいぼが消えていく効能を理由と共に話しましたが、現代子供たちにとっては「きょとん」としたかおつき。

他に、あとでイチジクの仲間で見られるイタビカズラも見られたので、白い汁を出して見てもらいました。



オガタマノキとミカドアゲハの説明  
ミカドアゲハの標本も見ました



タブノキ



タブノキの粘性の説明  
イタビカズラ



少し進むとムクロジの木があり、木の説明の後、水を入れた容器に実を入れ、振ってアワダチを見てもらい、「シャボン」・・・洗剤としての用途もあること、黒い種は羽根つきの羽を刺した黒い球がこれですと、この黒い実を道の石に当ててもらって、よく跳ねることを体験してもらいましたが、羽根つきも今や「レジェンド」かな？ 参道下からずっと、ここかしこにヤマアイが見られ、花はやっと少し咲いたばかりでしたが、染色の用途があることを知ってもらいました。キノコのクロラッパタケで名前の形のイメージを、ホコリタケでは指で触って胞子が飛び出る瞬間を観察、雨しずくが当たってもその衝撃で胞子が飛び出ることも知ってもらった。

登るにつれ左右にクスノキの大木が目に入り始めた。山上鳥居付近では、京都府絶滅危惧種のシダの仲間、コヒロハハナヤスリが見つかり、胞子葉と栄養葉の違い、ヤスリの名の所以などを説明

されました。直ぐ後にはシダのフユノハナワラビが見られました。柵の中から、ナギが生えており、鉄の地肌を連想させる木肌が特徴、雌雄異株、葉は平行脈がある針葉樹・・・これが針葉樹？ に驚きの声、球状青黒の実は見られず、雄株かな？ しばらくして、楠木正成公が1334年に奉納されたという御神木の大クスノキを拝見しました。道際に紫の実をつけたコムラサキとムラサキシキブがあり両者似ているので、違いの説明を受けて納得してもらった。ところで実の鮮やかな色に魅せられ、子供たちが何人も、食べたーい!!と叫ぶ、食べても美味しいかわらんよ、という、それでも口に入れた子もいて、すぐ吐き出したが、観察意欲、この一瞬の反応が大変頼もしく思えました。

道際にあるタラヨウには赤い実がなり、葉っぱの裏に尖ったもので文字を書くと直ぐ黒く浮かんできて読めますという、早速落ち葉を拾って実行し、ほんとや!! の声、「葉書の木」の別名通り、住所、宛名、〒No. を書いて投函すると届きます。但し、定形外郵便料金の切手を貼ってくださいね! の念押し。



フユノハナワラビ



コヒロハハナヤスリ



ヤマアイの花



クロラッパタケ



クロラッパタケ大撮影会



コムラサキとムラサキシキブの説明

何かの実が落ちている、の聲で見たところ、テウチグルミとの説明がありました。手で割って食べられるものですが、これは、食べたいの聲はなし。真上を見るとこの木が枝を張っていました。駐車場の広場に出ると、周りはモウソウダケ、マダケの竹林、エジソンが白熱電球のフィラメントに男山のマダケを使って長時間の点灯に成功した話は有名です。この竹林の際にニワトコ、イヌガシ(クスノキ科、葉が三行脈、いい香りがする)。

これらの花は、現地で三月に撮影した写真で説明しました。また食べられる木の実があり・・・それはムクノキ。手の届く範囲で子供たちは実の取り合い、かなり冒険してゲットした子もあり人気のある甘い木の実でした。

昼食をはさんで、裏参道を下山。スズメウリの実が網を張ったようにたわわに下がっていたり、イスノキ(ヒョンノキ)の「虫えい」が落ちていて、持参のものを含めて空いた穴で笛を吹く体験をしてもらいました。ちょっとコツが要り、穴から何かが噴き出るのでは?と勇気も必要ですが、何とか音が出たようです。ちょっと横道にそれて歩いたところ、ウバユリのさく果があり、枯れた茎をちょっと揺らすと無数の種子がひらひらと飛び散り、子供たちは面白いので激しく揺らしたので、翼のついた種子が紙吹雪の如く舞い散りました。

この場所は湿り気があり朽ち木にはエノキタケがあり、エノキタケは市販のものと大違い、傘のサイズも5cmほど、八百屋さんのものは屋内での、いわば、もやし栽培の結果とか。道際には、黄葉したホウチャクソウも見られました。やがて、元の裏参道に戻りましたところ、小さな沢の溜まりで子供たちがサワガニを見つけました。これも自然の豊かさの印かと思います。

出発地の高良神社前で午後2時頃解散となりました。参加者にはご満足いただけたようで、又主催者より来年もよろしくとの言葉を頂きました。

眞田幹雄



タラヨウの実



スズメウリ



ウバユリ種子飛ばし  
(クルクル回って飛んでいきます)



羽のついたウバユリの種